

2026年3月31日

各位

会社名 アライドアーキテクト株式会社
代表者名 代表取締役会長 田中 裕志
(コード番号: 6081 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員 財務経理部長 水野 智博
(TEL 03-6408-2791)

上場維持基準（時価総額）への適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2025年3月31日に、「上場維持基準への適合に向けた計画について」を開示しております。2025年12月31日時点においても上場維持基準に適合しない状態が継続していることから、計画の進捗状況等について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

なお、時価総額基準について、次の基準日である2026年12月31日時点で適合できなかった場合、当社株式は上場廃止となるおそれがあります。具体的には、基準日時点で当社が潜在株を有しておらず、時価総額基準に適合していないときには、当該基準日時点で整理銘柄に指定されます。整理銘柄に指定された場合は、2027年7月1日に当社株式は上場廃止となります。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2025年12月31日時点におけるグロース市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、下表のとおりとなっており、時価総額基準については現時点で基準を充たしておりません。下表のとおり、時価総額基準に関しては2026年12月31日までに上場維持基準を充たすために、引き続き各種取組を進めてまいります。

		時価総額	
当社の 適合状況 及び その推移	2024年12月末時点 適合状況	28.3億円 (不適合)	(参考) 3ヶ月平均株価 198.31円
	2025年12月末時点 適合状況	33.7億円 (不適合)	(参考) 3ヶ月平均株価 211.69円
上場維持基準		40億円以上	
計画期間 (改善期間)		2026年12月31日まで	

※当社の適合状況は、東京証券取引所より受領した「上場維持基準への適合状況について」から転記したものです。

なお、当社は2025年12月11日に「東京証券取引所スタンダード市場への市場区分変更申請に向けた準備に関するお知らせ」を開示しており、上場維持基準への適合に向けた取組みと並行して、スタンダード市場への市場区分変更申請に向けた準備も進めております。市場区分の変更に関する進捗につきましては、開示すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 上場維持基準への適合に向けた取組の実施状況及び評価（2025年4月～2026年3月）

（1）時価総額基準について

<取組の実施状況>

当社は、2025年3月31日に開示した適合計画において掲げた3つの重点方針（①業績回復の推進、②ガバナンス・内部統制の強化、③IR活動の強化）に基づき、以下の取組を実行してまいりました。

① 業績回復の推進

2025年12月期において事業ポートフォリオの再構築を完遂し、国内マーケティングAX（AI Transformation）支援事業への経営資源集中を加速させました。マーケティング実行レイヤーを起点に、マーケティング戦略レイヤー、経営・事業戦略レイヤーへと支援領域を拡張する「三層支援モデル」が全社に定着し、二層・三層の顧客単価は一層の約7倍（四半期平均280万円）に達しました。また、データプラットフォーム「Kaname. ax®」の基幹技術について特許を出願し、データ起点の支援メニュー拡充を進めました。シンガポール特定子会社SuperFaction Pte. Ltd.の清算手続きを完了し、海外事業からの撤退を完遂するとともに、第三者割当増資の実施により財務基盤の強化を図りました。さらに、2026年3月にアライドクリプト株式会社を設立し、クリプト関連事業の基盤構築に着手しております。

② ガバナンス・内部統制の強化

2024年に判明した不適切な会計処理については調査委員会による調査を完了し、2025年12月期に調査委員会関連費用729百万円を特別損失として計上の上、緊急対応を終了しました。2025年7月より再発防止策を正式に開始し、ガバナンス強化、会計・コンプライアンス教育、3線ディフェンスの整備を三本柱として内部統制体制の構築に取り組みました。ガバナンス強化費用は当初見込みの約150百万円から最終的に約60百万円へと大幅に圧縮できました。また、取締役の増員により経営体制を補強しました。

③ IR活動の強化

オンライン決算説明会の実施、事業計画及び成長可能性に関する事項の開示（2026年3月17日）等を通じて、事業戦略・成長可能性について投資家への丁寧な説明を行いました。2025年12月11日にはスタンダード市場への市場区分変更申請に向けた準備の開示も行っております。

<取組に対する評価>

上記の取組の結果、2025年12月期の連結営業損失は188百万円と前期（459百万円の営業損失）から約271百万円改善し、構造改革の効果が顕在化しております。第4四半期にはマーケティングAX支援事業単体で営業黒字を達成しました。時価総額は2024年12月末時点の28.3億円から2025年12月末時点で33.7億円へ改善（+5.4億円）しましたが、上場維持基準の40億円には依然として届いておりません。業績改善は進行しているものの、不適切会計事案に係る特別損失の計上や、市場全体の投資環境の影響もあり、株価の本格的な回復には至っていない状況です。

3. 上場維持基準に適合していない項目のこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

（1）時価総額基準について

<今後の課題>

時価総額基準40億円への適合に向けては、業績の着実な回復・成長を通じた企業価値の向上が最重要課題です。2026年12月期は営業黒字転換の実現が最優先であり、同時に2027年12月期中期目標（売上高50億円・営業利益5億円）への道筋を示すことで、市場からの信頼回復と株価の向上を図る必要があります。

<取組内容>

① 業績回復と持続的成長の実現

2026年12月期においては、売上高30億円、営業利益0.5億円（営業黒字転換）を見込んでおります。三層支援モデルの深化による顧客単価の向上、Kaname. ax®のカスタム導入型モデルの展開加速、クロスセル・ア

ップセルの推進及びAI活用による営業生産性の向上（社員一人当たり売上高の目標：年間2,500万円）に取り組めます。また、クリプト関連事業については2026年12月期は投資フェーズ（業績予想には未織込）の位置づけですが、2027年以降の本格的な収益貢献を見込んでおります。

② ガバナンス・内部統制の継続的強化

再発防止策の徹底と内部統制制度の整備・運用強化を継続し、ステークホルダーの信頼回復と経営基盤の安定を図ってまいります。

③ IR活動の強化と情報発信の充実

決算説明会や個人投資家向け説明会などを通じて事業戦略・成長可能性を丁寧に説明してまいります。特に、三層支援モデルの浸透状況、Kaname.ax®を核としたデータドリブン戦略の進捗、クリプト関連事業の展開状況について、定量的な指標をもって分かりやすく発信し、市場からの信頼性向上と当社株式の評価向上を目指します。

④ 資本政策の適切な運営

企業価値向上に資する資本効率の改善に努め、業績の回復・成長を通じて自己資本の充実と資本効率の向上を両立させてまいります。現時点では希薄化を伴う資金調達は予定しておらず、事業の着実な成長を通じた企業価値の向上に注力いたします。

<当初の計画内容から変更した内容とその理由>

当初の適合計画（2025年3月31日開示）では、①業績回復の推進、②ガバナンス・内部統制の強化、③IR活動の強化の3点を重点方針として掲げておりましたが、今回の進捗状況においては以下の点を変更・追加しております。

- ・事業セグメントを「マーケティング AX 支援事業」に統合し、三層支援モデルを軸とした成長戦略をより具体化しました。
- ・新規事業としてクリプト関連事業（アライドクリプト株式会社）の推進を追加しました。
- ・資本政策の適切な運営を重点方針に追加しました（第三者割当増資の実施を踏まえたもの）。
- ・スタンダード市場への市場区分変更申請に向けた準備を並行して進めております。

以上